夕刊
磐城新聞
七月七日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

短歌の思出

駒嶺抱夢

三

○根は今し朽ちし柩に觸れたりと棒はおのゝく木枯の風

選者は柴舟氏であつたか秀才文壇（當時の文藝雜誌）に鳴らした歌だ

○空焦す山火事の明ゝ背にうけて山を下り行く狼の群れ

是は明治四十年頃中學文壇（當時の中學生程度の文藝雜誌）信綱氏選の所見

此の中學文壇は隨分廣く讀まれた雜誌で後に文學の大家になつた人達も大概は此の雜誌の投書家であつたやうに思ふ、牧水にしろ夕暮にしろ一度は此の雜誌の投書家であつた、現今では何流か知らぬが詩人の三木露風などは僕の歌より下に出た事も度々あつた、秋田雨雀、相馬御風皆中學文壇を文藝生活の搖籃としたことは確である。此の雜誌は明治四十四年頃から左前になつて大正になつて廢刊になつた。短歌の選者は信綱氏が最も長く終刊の頃には山上ゝ泉といふ選者に變つた、中學文壇で信綱氏のお世話になりどうやら形式的に歌を作れるやうになるともう信綱氏の選に甘んじてゐる者はなかつた、さつさつと晶子派か薰園か柴舟に走るのが其の當時の靑年歌人の定法であつた

○馬賣つて歸れば家には妻はあらず酒溜めて高歌する宵（信綱選）

○百千度君が御名書く白紙はぬば玉色に染みにけるかな（晶子選）

○君が文炎に投げぬ恐ろしき煙の包む夜叉を見るかな（晶子選）

○鐘底ふ月朧ろなる大悲閣かゝる夕や入僧となりし（薰園選）

○黃金の鈴白銀の鈴振るがごと春の譜もらす駒鳥の聲（薰園選）

○あゝ淚飄く落ちぬかりそめの別れの如く我は思はず

是は服部嘉香氏の歌で文字の技巧のみに逡巡してゐた僕は此の歌を見た時眼が覺めたやうな氣がしたものであつた

○誰が愛ひのせし落葉かはら〳〵と一足毎に思亂るゝ

二三字違つてゐるかも知れない柴舟氏の歌である

○雲の峰西す萬里の長城や蒼馬が背にこる大支那の夏（嘉香氏の歌）

最初の明星が百號でろ刊になり續いて吉井勇と江波文三共同のスバルが出た、あの頃の勇氏の歌は最高潮であつたらう

七夕

赤津興味

竹を　切りましよ
タン　タン　タン
すゞしい　露が
こぼれましよ

竹　切りました
タン　タン　タン
すずしい　露は
もう乾く

七夕の　竹
タン　タン　タン
たなばた紙を
むすびましよ

竹　たてました
タン　タン　タン
子どもが　留守で
さびいしよ

五月雨集

五月雨や踏切番はランプ吊る　雷子
蝶の羽にかみつく蟻のたけ〳〵し
植ね終へし田を澤蟹の走りけり　秋光
汗のシャツ帆綱にかけて舵を取る
握りたる受話機に梅雨の濕りかな
梅雨暗し繪馬堂にある龍の額
水汲みに通ふ小路の藪蚊かな　甚二
畦切や崩れしまゝの沼堤

田園雜興

珠雲　小野務平

細霖連日濕煙長
麥秀如人須已黃
一色靑疇千百頃
村翁野媼揷秧忙

7月8日

△吉宗目安箱を設く（享保八閏）△外國奉行設置（安政五）△岡田內閣成立（昭和九）△獨政府建艦計畫發表△平小鐵座談會（同一〇）

小說　高橋是清

(59)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

奴隷（四）

『お前は眞逆この儘當家から出て了ふ譯ではあるまいな?』

ブラウンが言つた

『それはどう言ふ譯です』

和喜次が訊き返した

『五十弗だけ置いていつて貰ひたいのだ。いや、貰はねばならん』

『五十弗?』

『さうだ』

『何です?』

『向ふ三年間、お前の身體を買受けた金だ。お前は未だ、三年は愚、四分の一も働らいてゐない』

『エッ』

『今更驚く事はないと思ふ。現にお前は、自分のペンで友人と共に契約書に署名してゐる。契約書が總てを證據立てよう。年少の故で契約は破れまい』

『……』

和喜次は仰天した。瞬間言ひ出すべき言葉が發見されず、凝然と對手の顏を見上げて立つてゐた

『ブラウン家　三年。住込み。』

一條が讀み得た單語だ。あれは奴隷契約書だつたのたのか。さう思ふと、和喜次は、異國に來て、未だその國の言語をすら知らぬ者を、而もその事を奇貨として、こんな惡辣極まる、非人道的行爲を敢てして差じない亞米利加人に、唾液でも吐きかけてやりたい憎惡を感じながら、やツと、叫ぶやうに言つた

『噓です! 欺瞞だ!』

だが對手は愈々冷然として、

『それは知らない。今にそんな事を論ずる必要を持たないのだ。唯わしの手許にその契約書が保存されてあると言ふ事實だけがものを言つてゐるのだ』

『卑怯だ。かたりだ!』

然し、今は實際言ひ爭ふ事は無用だ、と、和喜次は思つた。先づ桑港へ行つて一條にその由を告げ、それから善後策を講じるより仕方がない、と、考へた

そして

『では兎に角、一日だけ暇を戴きませう』

『そしてどうするのだ?』

『明日桑港へ行きます。友人と相談して來たいのです』

『莫迦ッ!』

突然ブラウンが喚いた

『生意氣だ!』

平手が和喜次の頰に鳴つた

『ま、そんな亂暴な……』

その時、芝生を走つて來た夫人が、和喜次をかばつて止めた

ブラウンは大股に歩いて扉の中に消えて行つた

『一體どうしたの。ワキジー?』

夫人が訊いた。が、和喜次は答へやうとしなかつた

『え、何がブラウンをあんなに憤らせたのです。言つてご覧。ねえ、ワキジー?』

『……』

それでも、和喜次は、執拗に默りこくつてゐた

と、ブラウンの姿が、又元の扉の內部から現れて

『おい、ワキジー!』

荒々しく命令した

『馬具を持つて來るのだ!』

『……』

『早くせぬか!』

『……』

『莫迦ッ!』

ブラウンが鞭を上げて叫んだ

『貴方……』

夫人が走り寄つて止めた

『そんな手荒な事をするものぢやない。ワキジー、さ、早く直しておいで』

和喜次は無言で走つた

『彼奴、暇を呉れと言つた!』

ブラウンが笑ひながら言つた

夫人は頷いたきりだつた

和喜次が、直ぐに馬具を擔いで來た。そして、ブラウンの前まで行くと、依然無言で、足許へガサッと音をたてゝ投出した

狂言師と狐

生方たつゑ

上

『さうでしたな。月の明るい晩でした。若い頃はよく伏見から大阪へ、稽古の暇を見ては芝居見物に通ひましたものですかな。その晩も芝居のはねた後、ちよつと梅田邊をぶらついてゐますとな。こうつと、名は忘れてしもたのですが、伏見の舞子とひよつこり梅田で逢ひまして、丁度よい一緒に歸りましよと言ふ事になり、私がふたりの二等切符を買ひましてな。名染の者ですさかい、伏見で汽車を降りてからも、ゆつくり月の夜道を樂んで歸らう言ひまして、ぼつりぼつりと步きましたんですわ。『もうし! 車をまけときますさかい…』といふのをわざと斷つて、夜みちに馴れ通つたところどすので、舞子の手をひいてあの森一つ廻り出ればよいわい、と歩いて行つたもんですわ。ところがどうした事か、その間近に見えてゐる森がなかなか遠いのでしてな。いやその晩に限つて……初のうちこそ懇ろな舞子を連れての語りに氣もいらちませんなだが七月の野みちの夜氣が更けてじつくりと汗ばみましてな…、宵のうちに一度乾いた汗が、又づくづくと肌に濕りまつはつて來ましたわ。歩いても歩いても同じ道でしたさかい業を煮やしましてな。連れの舞子までが重荷のやうに思はれてきましたわ——。あの邊はもうふる程虫の音がしてゐましてばたつばたつと裾をける音にみち端の虫がびつくりするのか、ちよつとのまだけ鳴きやみますんでな。私はかさかさと右手の薄の原にゑんこをしてしまひましたらな、舞子も『あししんど!』と言つて私の傍へ寄つて座つてしもたんですわた

本社振替貯金口座加入
新聞代及廣告料等の御拂込みに御利用下さい
東京 一〇八、五六五
磐城新聞社

不二タクシ
電話三二番

廣告

日本の家庭必備藥
トフメル
皮膚に 外傷に 化粧に
平町田町
阿部藥舖

平町南町五二
根本產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（手術室完備 入院隨時）

●●●●
ふくやき、改良いたしました。
お試食ねがひます。
谷口樓むかひ
元祖屋

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）（電話八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
海上給油所及油槽所 大津、平潟、小名濱、江名濱

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物金物問屋
㊅釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座 東京一〇九五六番
確實敏捷は㊅の生命なり

食事、喫茶、酒場を兼ねた
初夏のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

例年の通り
やな川鍋を始めました。
御一人前 金二十五錢
御二人前 金四十五錢
出前は迅速に御用便を勉めます。
其他御料理は御望に依り調理致します。
田町
石川亭
電話四十三番

はねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

お醤油は……ヤマフル
釀造元
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌 醤油
たひら正宗
鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

夏の三原山へ
觀光團體募集
◇期日 八月一、二兩日
◇會費 御一名十圓（但し東京解散までの汽車、汽船、自動車、食事その他一切の費用を含む）
◇募集人員 一〇〇名
◇コース
一日午後二時十分平驛發、全六時五十七分上野驛着、自動車で靈岸島へ—全十時乘船出發
二日午前四時大島元村着、旅館で朝食後希望に依りAB二班に分離（A、B兩班共午前六時元村發徒步で登山、山頂噴火口視察後A班は間伏へ下山それより自動車で波浮港へ……波浮港より元村へ歸着、B班は火口より動物園へ下山、自動車で觀光ホテル着晝食、更に自動車で元村歸着）兩班とも午後三時乘船、同七時卅分東京着解散
（詳細は電話六一二番へ御照會下さい）
昭和十一年六月
福島縣平町田町五十番地
主催 福島民報平支局
（電話六一二番）

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日本齒科醫學士 西川誠
（見習看護婦募集）
平町田町（松月堂向と）電話五〇九番

勉强ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品建具材
內外銘木 建築木材一式 便利死、木羽
㊎織田材木商店
平町紺屋町
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話 一二九）

一兩日經過を見れば 未だ斷言出來ぬ天候
小名濱測候所 空の打診

暦面の入梅當時一寸涸つゆの形ちに後になつて永びくでは無いかの懸念が不幸

夏・憂欝

杞憂に終らすして、季節外れな昨今の五月雨氣分。小暑(今七日)にあるまじき寒波の停滞に・やけ半分の噯を大きく怒鳴つて陽氣の逆轉を羽織に紛らす騒ぎ、折角準備に取り掛つた氷水屋の店頭にもダイヤネオンが寂しく閃めいて憂欝はそこはかと低迷してゐる。之の鹽梅では大事な稲の分蘖にも少からず影響するだらうに、一体この儘いつ迄續く事か、小名濱測候所に伺ひを立る——

高氣壓は七六六ミリを示して北海道東方洋上に在る。氣壓の配置は北高南低の配置の爲め梅雨のかたちとなつて居るもので之の高氣壓がオホーツク海から小笠原島方面へ南下すれば明朗な眞夏の陽氣に回復する。當面の天候を支配する高氣壓は目下夏の常態である南高北低に入るの傾向あるが、それが果してどの程度行くか結局尚は一兩日間に於ける推移を見ねば斷言出來ない。云々

海へ海へ「夏を讃へよ！」
愈よシーズンに入り 仙鐵で二割引切符發行

ぐづついてゐるこの天候があがると直き灼熱の夏到來だ、海へ山へと『夏を讃へよ』のシーズンに入つたので仙鐵局ではこれら避暑客の便宜を圖り、例年の如く來る十日から來月末まで四倉、久之濱の避暑地行き二割引往復切符を發行する事となつた

ろ豫定であると

江名有志 縣會傍聽

江名漁業組合員並に同町青年團員合計百餘名

乗合賃銀を割引き 豊間の迎客準備成る
地元青年團等大童

豊間の海は招くよ！地方青年團主催となつて早くも無料脫衣場の設備や海上警備等迎客の誘致に乗り出してゐるが更に鈴木、野崎兩乗合自動車業者に交渉して來る十五日から來月末迄豊間迄片道三十錢、往復四十五錢、薄磯、沼の内迄を片道二十五錢、往復四十錢に割引する事となつた

東北振興兩會社株の引受けに關し協議する

県童唱歌大會 廿二日大浦校で

郡第四區小學校の兒童唱歌會は來る二十二日午前九時から草野小學校に開き仙臺放送局員により審査の上優良校は近くHKから放送す

勿來の海は招く

『勿來の海』宣傳に地元關係者が此程同町小學校に座談會の形式で協議した結果、來る十七日から來月一杯脫衣場、賣店、定期自動車、警備救護班等により浴客の便宜を圖る事となつた、商賃間は一疊一圓五十錢位で、詳細は勿來小學校內青年團へ問ひ合せられたいと

勿來町會。。。

勿來町では八日午前九時から町會を開き

田植も濟んで動き出す勞働者街
鎌田山工事漸く賑ふ

一日手間賃一圓五、六十錢にもなつた田植も漸く濟んだので鎌田、立町邊の勞働者街は弗々鎌田山開鑿並に夏井川改修工事に吸收されて居る、去る四日で一と先づ締切つた中職業紹介所の登錄も男女二百二十三名に上つたが、工事も愈よ本格的に入つて一日七、八百名を要するので更に隣接村からも狩り出す方針らしい

昨年度の成績を見ると六百六十名の登錄に拘らず他村出役者を合せても三百名に足らず工事の進捗に少らず支障を來したので今回の登錄者は直に就勞するやう望んで居る

鑛區を持ち腐つて 税金に惱む權利亡者
石炭黃金時代の裡面に之の皮肉 近く公賣處分を斷行か

炭礦黃金時代の裏面には全然企業の資力無く、單に圖面上の財產に一攫千金を夢みて居る所謂權利亡者が如何に惑溺たるかを物語る礦業稅の滯納がある。試みに昨十年度(今十一年度分を前納する)の郡下礦業稅徵收成績に就て見ると

採掘鑛區稅調定額(千坪六十錢)二六、五五九圓六〇錢　一二九件

試掘鑛區稅(千坪三十錢)一四、一〇四圓三〇錢　一〇三件

中件數に於て約半數を占むる採掘四四件(稅額九、八三三圓四九錢)試掘五六件(稅額四、四二九圓七七錢)が收入未濟となつて居り、所轄平稅務署では着々督促整理に努めて居るが中には權利讓渡の手付金でも入らぬ以上全然資金調達の方途が就かぬのなどもあるので結局鑛區の公賣處分を行つて兎をつけるの已む無きに至るものも相當出來るものと觀られてゐる

小名濱水揚げ減少
潮流異變と大敗不振

小名濱町營魚市場の去月中の水揚げ總額は九萬八千三百九十二圓で昨年同期の十二萬二百七十三圓に比し三千七百八十一圓の減少となつてゐるこれは潮流異變による鰹の廻游期が遲れたのと大敗網の不振に因るもので鰹漁最盛期に入る頃には盛返すものと見られてゐる、なほ水揚げの內譯は左の如く廻船の漁獲が大部分を占めてゐるのは注目すべきである

大敗網漁獲一六、七九八圓　△地元鰹船同二九七四九圓　△縣外廻船同五二、二六五圓

は來る十一日から開かれる臨時縣會傍聽に出廟する

青梅の出荷

植田郡農會斡旋で昨六日菊田方部から青梅五千貫の第二回共同出荷を行つた行き先きは水戶、土浦、日立方面で、相場は貫當り二十五錢であると

土木委員會

平町土木委員會は九日午後一時から開き左記諸件を附議する　△町有地特賣△排水工事指定寄附金並に道路鋪裝工事寄附金整理

川部村收入役改選

川部村收入役闔部常彌氏は任期滿了、此程庭田庭親氏が就任した

名畫で釣る

鹿島村生れ伊達郡■山村大字大石字瀧本書畫商新妻貫佐(二四)は昨年四月中より信夫郡佐倉村高橋重吉氏外二十六名より名書を周旋すると稱し三圓乃至十五圓宛を受取りその儘繪書を渡さず右金圓を詐取した事發覺福島署に檢擧された

學校衛生關係 二百名參集
けふ磐女講堂で開催

縣學校衛生會第七回總會及び學校醫、學校齒科醫會議は今七日午後一時から磐城高女講堂で約二百名參集、副會長高井敎育課長開辭、會長諸橋學務部長挨拶、庶務會計報告、第十五回全國學校衛生會總會出席報告、左記建議案を審議、協議事項を討議、役員改選、恩賜財團濟生會之病院眼科醫長山崎順博士の『山崎式トラホーム治療法に就て』と題する特別講演、同校理科室に實驗治療社の學術映畫映寫あり諸橋會長の閉辭で散會した

△建議案　小學校醫年手當標準一定　小學校衛生施設縣費補助、學校醫に鐵道乗車割引許可(安達二本松第二前野記次郎　同第一寺田三郎　岳下市川由廣)

△協議事項　齒牙清掃獎勵＝新入生入學時齒刷子購入齒磨發練實施　清掃狀態採點の競掃　通信箋齲齒欄永久、乳齒分類記載　學童に口腔衛生知識教授(田村船引河島清)

四倉書道展覽會

四倉書道研究會第三回展覽會は來月四、五の兩日同町小學校に開くが兩日共午前九時から午後四時迄一般の參觀を許すと、審查員は高木双南、佐藤翠松兩氏である

兩電力會社 合併成る 來九日披露式

大日本並に東部兩電力株式會社は此程合併成つたので九日午後六時から住吉屋本店で披露會を開く

電話

至急讓り受け度し(姓名在社)

さすらひの少年に嬉しや！育ての父
救はれた芳雄少年

天涯孤獨の少年が各地を流浪中郡山で新たな育ての父に引取られた話——泉村生れ小熊芳雄君(一二)は四ツの時に父に死別し八ツの時に今度は母のユキさんに死別れたが兄弟縁者もないのでたッた一人となり幼い時から各地を浮浪、郡山市に流れ込み五日市內を徘徊してゐるのを郡山署員が發見し同署で保護を加へてゐたが、このことを聞きつけた同市方八町桶職伊藤武雄さん(三七)が六日朝署に出頭『芳雄君を引取つて世話したい——』と申し出たので署員も感激し、芳雄君は新たなる育ての父にイソ〳〵と手を引かれて行つた

お客が取れず
十八酌婦の服毒自殺

平町南町五料理店龜屋事高橋とみ方抱酌婦宮城縣黒川郡吉岡町生れ千葉コハル(一八)は六日正午猫いらず自殺を圖つて苦悶中を發見され手當を加へたが午後十一時半頃遂に絶命した　コハルは去月十九日前借三百六十圓で住み込んだものだが顏が醜いため客が取れないのを悲觀しての結果らしい

天氣豫報（小名濱測候所觀測）

今晩は北東の風曇小雨　明日は北東の風曇驟雨模樣

拈華微笑（今日の問題）

問題の流行歌『忘れちやいやよ』に對する街頭宣傳の禁止理由は恐らくそのリズムが餘りにもエロチシズムを有つからであらう、而も音曲の場合には知性濾過が殆どなしに直接的に官能に訴へて來るが故に刺戟性が甚しく强烈だし其丈け被感受性もより多く一般的だと云へる、だから音律が官能の琴線に一度觸るれば人の心は遂に大地から遊離する。大衆を端的に指揮する時音樂が意外の効き目を現すのは憖座理くつからであらう

×

軍歌が軍衆統率に大きな役割を演じラヂオの歌曲が体操するものゝ心をぐつと引き締めるのも共に因るのだ。和歌俳句民謠の目覺ましき大衆化時代だと今は云はれてゐるが音樂には到底及ぶべくもない、三歲の童子すら口吟む流行歌を吾々は耳にする。『忘れちやいやよ』に現はれたリズムが大衆的に成功した事は蓋し掩ふべからざる事實である

×

憂ふべきは大衆の心理が斯様な方途に傾きつゝある事だが、責むべきは其の作曲家に非ずして大衆のうちに潛む傾向である。エロチシズムとデカダンスと混ぜ合せた樣なあの曲が不思議にも若い多くの人達の心を捉へて離れないのである。吾人はそこに現代人の惱みと惑ひとそして人間性の大きな矛盾とを見出さずには居れぬ

×

けふも死魚の目の色をした空あひに、いつ本當の夏氣分になれるやらと悲觀したが午後から完全に霽れ上つて氣持が良い。矢張り生物には太陽が一番親しまれる

寢室の怪漢

四倉町志津佐々木次郎(一九)假名—は去る二日午前二時頃同町新町雜貨商荒井チヨ方女中矢木澤キヨ(一九)假名—の寢室に忍び込んだが騷がれて逃走間もなく四倉署に捕はれた

三井タクシ　電話六八五番

終に直らぬ泥棒根性
尼子で盜み損ねた若者 起訴猶豫の餘罪も判明

去月二十日深夜平町二丁目尼子自動車部に忍込まんとして捕はれた當時磐崎村藤原別所佐伯光榮方北海道瓜生郡幌加內村生れ高田文男(三〇)は平檢事局氏家檢事係り取調の結果、右の外曩に起訴猶豫になつた昨年七月湯本、內郷で數回、同八月中小名濱軌道會社事務室から二回に亘り働いた窃盜の二件をも起訴、住居侵入、窃盜罪で明七日平區香西判事係りで公判開廷される

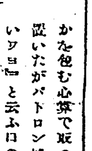
手長男に懲役求刑

住居不定無職西白河郡三神村堤字中屋敷生れ德次郎長男前科一犯小川勝朔(三二)に係る窃盜事件は懲役三年　又住居不定無職湯本町水野谷字諏訪ケ崎生れ前科六犯馬上貴平(四三)の同上も今七日野木判事氏家檢事係りで公判開廷懲役二年六月を求刑された

辭令

從五位勳六等　小檜山久作　敍正五位

艶罪黒白

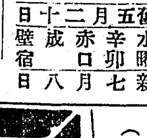


◇お盆もそろ〳〵近づいたので新田町の連中はひゐき先へ配る財源ネン出に頭をひねつて居る。之れ丈けは外されぬ義理とあつて、ついズロース迄外すのなんかも無いとは限らぬ物騒なシーヅンだ◇義理堅いアヤ弟は…『ハトロンなら爲一の時何かた包む心算で取つて置いたがパトロンは無いワヨ』と云ふ口の下から『でも銀行の旦那に相談して見やうか』と云へば、口の良くないのが『お前のは一六銀行だらう』に流石自慢の太さほに心臓の强さを誇る彼女もダー◇踊り新參と云ふ處で曾て居た大震災直後頃の知合ひと盛んに蓄交を温むべく腕によりを掛けてゐる花香元老『ずい分町も變つたのね』とか何とか述懐したは良かつたが後賽から『ねえさんもずい分變つたワ』とやられて少からずセンチになつたとやら◇傳令を遣らせても何をやらせても柄の大きいのに限る——と逢い口を辷らせた丈けで山砲兵軍曹タイプの淺薔から冷いビールなしこたま御馳走になつた果報者があるそうな、彼女も案外あまい處があるらしいとの評判である。

八日（小名濱測候所發表）

日出　四、二八　月出後　九、〇八
日沒　六、五六　月沒前　七、五六
滿潮　前四、五五　後六、四五　干潮　後　〇、一五

舊五月二十日　水曜　辛卯　赤口　成　壁宿　新七月八日



諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　外事に係らず內を守り營業を勵むが安全▲二黑　內より福がわき外より祿の舞込む如き吉日▲三碧　平靜なれば何事も無難外出は失物に注意▲四綠　僞る事爲す事富の如く行はるゝ吉日▲五黄　待たぬとも向ふから首をたてに振り來る▲六白　一家の平和を祝福し外に氣を散らさぬ事▲七赤　至誠は招福の基至靜は活動の第一歩たり▲八白　何事も可ならざるなし人の爲をも盡すべし▲九紫　得を人にゆづりて身を退けば却て德を増すべし

募集

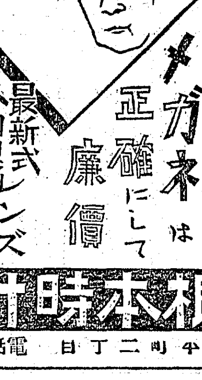
出前持ち二名　十四、五歳より二十三四歳迄で自轉車に熟練せるもの、給料其他面談の上

平町田町　酒喜屋　電話一七一番

松村醫院　院長　松村鐵郎　平町南町電一〇七

東北興業株式會社並ニ東北振興電力株式會社株式募集

資本金總額　各　金參千萬圓
壹株ノ額面金額　金五拾圓也
募集株數　各　拾萬株
申込株數單位　五株又ハ其ノ倍數
申込證據金　一株ニ付　金貳圓五拾錢
申込期間　自昭和十一年七月十四日　至昭和十一年七月十七日（但シ期間中ト雖モ締切ルコトアルベシ）
募入決定法　應募株數ガ募集株數ヲ超過シタル場合ニハ設立委員ニ於テ適宜割當決定ス
第一回拂込金　金拾貳圓五拾錢
第一回株金拂込期限　昭和十一年八月二十五日
申込取扱銀行　株式會社七十七銀行平支店　電話二三一・四一四番



メガネは正確にして廉價　最新式レンズ各國製
眼鏡　豊富に取揃へて御座います……（亂視用眼鏡即時調製）
根本時計店　平町二丁目　電話六〇七

父龜吉永らく病氣の處養生相不叶六日午前九時四十分死去仕り候就而辱知各位に御通知可申上筈の處乍略儀紙上を以て此段御知らせ申上げ候

追而葬送ノ儀ハ七月八日自宅ニ於テ告別式ヲ行ヒ午後一時郷里小名濱町自性院ニ埋葬仕ル可ク候

昭和十一年七月六日　平町大町四番地

男　高橋勇
高橋義
高橋三郎
外親戚一同